

## 婚姻に至る経緯書

申請人 崔 芳  
作成者・夫 山田 正泰

### 1 申請人（妻）の在留歴

申請人の崔芳は私の妻です。

妻は、2003年4月 日、就学の在留資格で来日し、その後、留学の在留資格に変更許可を受けて、在留期限は2007年4月 日でしたが、その期限を過ぎてもそのまま日本に滞在していました。上記の滞在期間の後半は、東京都練馬区高野台所在の整体院「 院」でマッサージの仕事に従事していました。

### 2 私（夫）の職業など

私は、従前、信用金庫に勤務していましたが、1995年から主に母親が練馬区で経営していたバラエティ雑貨販売会社（小、中学生向けのバック、文房具、ぬいぐるみ、雑貨、アクセサリ等）である有限会社 昇の経営を手伝うようになり、2000年から同社の代表取締役役に就任しました。家族企業とはいえ、一家を支える立場になって重い責任を感じながら仕事に精を出し、心身ともに疲労する日々でした。なお、会社の本店は住所と同じ場所ですが、本店とは別に西友 ×× 大泉店の中に「ピーチ ー」という名前の店舗を借りて営業しています。私は代表取締役ですから、本店と店舗「ピーチ ー」の両方に所属していることとなります。

### 3 妻との出会い

私は、仕事の疲れを癒したり、趣味のゴルフの筋肉痛を和らげるため、いつもマッサージに掛かっていました。ところが専属だった日本人のマッサージ師が転勤になり、それ以外の人では相性が悪くて困っていたのです。ちょうどそのとき、中国人が経営する「 院」という整体院の広告が入り、一度、掛かってみようと思ったのです。06年8月× 日、私は初めて練馬区高野台にある「 院」でマッサージを受けました。このとき、私を担当してくれたのが、いま私の妻となった崔芳だったのです。妻は、マッサージが上手いというほか、一生懸命に仕事に取り組む姿勢を持っていて、とても好感を抱きました。上記のように、私はマッサージを受ける身としては色々体験済みだったので、マッサージの上手・下手は良くわかるつもりです。この

ときが妻の最初の施術でしたが、基本施術の時間を30分延長してもらったのを覚えています。このとき、妻が中国人だということはわかりました。日本語も上手だし、マッサージも人柄も上々でしたので、定期的に通うことにしました。それ以来、1週間に1回のペースで「院」へ妻のマッサージを受けに行くのを日課とするようになりました。以来、約8ヶ月間は、顧客とマッサージ師の関係でした。

#### 4 妻との交際開始

私は、妻に好意を抱きながら、それまで、なかなか思いを伝えられずにいたのですが、07年5月×日から妻と個人的に交際するようになりました。正確には、この日以降、毎日、妻の退社時間に院へ車で迎えに行き、アパートまで送ってあげるようになったのです。単なる送迎ですが、職場と関係なく2人で一緒にいるようになったので、この日を交際スタートの記念日だと思っています。

私から見た妻は、異国の地から来て、最初はわからなかった言葉や習慣を覚えたりして、段々と日本に馴染んで生活してきたわけです。そういった元々の自分の殻を破って飛び出してチャンレンジする姿勢が、どちらかという内向的な私には新鮮に映り、感心してしまったのです。およそ自分には真似ができないように思い、自分にはないものを持っている妻が、自分のパワーになってくれると感じました。

#### 5 妻との交際(1) - 旅行のことなど -

5月××日には、私と妻で、初めて休暇を取り、丸1日の旅行に出ました。最初は、私の希望は東京ディズニーランドだったのですが、どうも、妻は、仕事で心身ともに疲れているように感じました。そこで、空気の綺麗なところでのんびりしたほうが良いと思い、栃木県日光へ自動車に出掛けました。日光東照宮、華厳の滝、戦場ヶ原と見て回りました。2人共通の好きなアーティスト・小田和正の曲を聴きながら、ゆっくりとドライブを楽しみました。

このとき撮影したのが【写真1, 2】です。

妻と一緒にいると、自分が自然で居られるのです。国や文化は少し違って、気持ちを通じ合う気がしました。妻が私の中でとても大切な存在に思えました。

それまで、マッサージの施術中でもプライベートな話をしてきましたから、お互いを理解するのに時間はかかりませんでした。妻の仕事帰りには、毎日アパートまで送迎して、その道すがら、身の上話や世間話をしながら理解

を深め合うことが出来ました。

5月末になって、妻は私のことを信頼してくれたのでしょう。中国に夫がいることを打ち明けてくれました。さすがにショックでしたが、その夫とは事実上破綻していて離婚手续をすることで合意しているということでしたので、一安心しました。

## 6 ニックネームのこと

互いに理解を深め合う中、私から妻に、こんな提案をしました。

「僕はね、お母さんから『まあちゃん』と呼ばれているんだ。親しい間ではニックネームで呼ぶんだよ。君も『まあちゃん』と呼んでくれるかい？君のこともニックネームで呼びたいけど、どんな名前が良いかな？」

2人で相談して、「瀋陽という寒い地方の出身だし、雪が降るところだね。だから『雪ちゃん』にしよう。」ということになったのです。『雪ちゃん』という呼び方は、職場や友達も使っていませんし、私たち2人の間だけで使っているのです。ですから、申請書に添付した資料の中で『まあちゃん』とあるのは山田正康のことで、『雪ちゃん』とあるのは崔芳のことで。

## 7 妻との交際（2）

その次に旅行に行ったのは07年7月×日の長瀨でした。自宅近くの西武鉄道富士見台駅から西武秩父駅を經由し、秩父鉄道で長瀨に着きました。ここでは鮎やイワナが美味しい店に入り、それから、妻が楽しみにしていたライン下りの船に乗りました。私もライン下りは久しぶりでしたし、妻には初めての体験だそうで、大はしゃぎをしていました。地図を見ると、宝登山ロープウェイというのがあると書いてあるので、猛暑の中、服もビショビショになりながら、何とか山麓駅まで辿り着きました。ロープウェイで山頂に登ると小動物園があったのでそこを見学しましたが、その名のとおりウサギやサルといった小動物だけが飼育されていました。

このころから、私と妻は、お互いの心が強く結ばれてきたように感じ、正式に結婚したいという思いが強くなってきました。

妻との間では、会話面での問題はなかったのですが、生活習慣が違うというか、思ったことを直接的に言葉にする妻の習慣もあって、時々言い争いになることがありました。そんな食い違いを解消しようと、8月×日から交換日記を書くことにしました。これが言葉に出す前のクッションの役割を果たしてくれ、落ち着いて気持ちを通じ合うことができるようになりました。

この交換日記の一部をコピーして提出します。

## 8 妻との交際（3）

その次は07年9月× 日に、埼玉県日高市にある曼珠沙華の里「巾着田」へ行きました。西武観光池袋営業所で巾着田日帰りプランに申し込んでおいたのです。本当は前日の夜から妻のアパートへ行って西武線に乗る約束だったのですが、仕事に疲れてウトウトしてしまったのです。午前1時半ころ妻から電話があり、「どうしたの?」と聞かれましたが、「眠ってしまった」と答えるとウソだと思われてしまいました。アパートへ行ってもなかなか開けてくれません。妻はドアの向こうで泣いていました。誤解を解くのに苦労しましたが、何とか予定どおり巾着田の曼珠沙華を見ることができました。旅行プランの中では、名栗温泉「大松閣」という旅館で昼食の予定でした。ところが、この旅館へ出るバスの発着所になっている西武線高麗駅で目の前に止まっていたバスが私たちを置いて出てしまったのです。早速、大松閣へ電話してクレームを付けました。手違いがあったとかで直ぐに別の迎えを出します、ということだったのですが、30 - 40分も待つ羽目になってしまいました。迎えの運転手にも文句を言おうとしたら、妻が「ちゃんと迎えに来てくれたんだから許してあげて」と言うので、私も穏やかな気持ちになることができました。妻はメンタル面でも私の癒しになってくれています。色々ハプニングがあっても、好天候で仲良く楽しく過ごせた1日でした。なお、長瀬と巾着田のときは、互いに相手を撮りあった写真がたくさんあるのですが、たまたま2人で一緒に入った写真はありませんでした。巾着田へ行ったときのポラロイド写真が交換日記に貼ってあったので、その部分は交換日記の一部として提出します。

## 9 妻との交際（4）

次は、07年10月 日 - 日に1泊旅行を予定しました。あまり遠くなくて妻が行ったことがない名所ということで箱根方面へ出掛けました。宿は、箱根強羅温泉の老舗旅館「雪月花」を予約しました。早朝、妻のアパートへ自動車で迎えに行き、ルートを考えながら運転しました。車中の音楽はもちろん小田和正です。特に「こころ」は、2人のテーマ曲になっています。こんな歌詞が私たちの気持ちにピッタリ合っています。

初めから 分かっていた 君の 代わりは いない  
世界中で いちばん 大切な人に 会った  
今日までの そして これからの 人生の中で  
君のために できることは ほんの少しだけど  
こころは ほかの誰にも ぜったい 負けないから

あの夏 世界中で いちばん 大切な人に 会った

今日までの そして これからの 人生の中で

自動車のHDDナビに小田和正のアルバム「自己ベスト」とマキシシングル「こころ」が入っていて、ドライブ中は、その2枚のアルバムを良く聞いていました。その中でも、2人で良くリピートしながら聞いていたのは、「こころ」「Woh Woh」「ラブストーリーは突然に」でした。妻は、前から日本の音楽に興味があり、特に小田和正の曲が気に入っていたようで、私と趣味が合いました。

箱根方面では、まず、芦ノ湖の遊覧船に乗ることにしました。元箱根に車を置いて、出航待ちの間、お土産屋さん立ち寄りしました。妻は寄木細工に興味があるようで、何点が購入していました。それから遊覧船に乗り、湖尻まで行きました。観光客は、中国、台湾、韓国の人が多く、日本人は10人に1人くらいに思えました。箱根ロープウェイで大涌谷に着くまで外国の観光客だらけで、ここは日本なのか？と錯覚するほどでした。大涌谷に着くと名物「黒玉子のクロちゃん」を食べて、「これで2人とも7年寿命が延びたね」なんて笑っていました。早雲山駅から箱根登山ケーブルカーに乗り、強羅駅で降りて植物園を歩いていると、予約した旅館「雪月花」に着いてしまいました。ですが自動車は元箱根に置いたままです。バスを探して元箱根に戻り、自動車で旅館へチェックインする形になりました。夕食後、岩盤浴に入ろうとすると、これが予約一杯で1人分の空きしかなく、妻に順番を譲って入浴してもらいました。妻は“のぼせ”たのか、鼻血を出して戻ってきました。珍道中でしたが、思い出深い1日でした。

2日目は箱根の関所へ行くと、遠見番所という芦ノ湖が一望できるポイントがあり、まさに絶景でした。ここをゆっくり散策しながら、2人の時間を楽しんでいました。休憩所でドリンクを飲んでいると、目の前に老夫婦が座りました。おじいさんが、ソフトクリームを2人分買い、おばあさんに美味しいからと勧めていました。最初、おばあさんのほうは欲しくなかったようでしたが、おじいさんが一生懸命勧めるので、おばあさんも折れて食べてくれたようです。そんなおじいさんが輝いて見え、「自分たちも年を取ったときに、この老夫婦のようになれたら最高だね」と話したことが、今でも忘れられません。そう言えば、私たち2人で一緒に餃子を作って食べたことがありました。私たちの場合は、ソフトクリームではなくて餃子かもしれませんが、老夫婦になるまで一緒に居たいという気持ちを強く持った記念の旅行でした。

このときの旅行で撮影したのが【写真3, 4】です。

## 10 妻の逮捕と強制退去

箱根旅行から帰った翌日の07年10月 日、妻は、入管法違反（不法残留）で逮捕されました。当時妻が勤務していた「 院」はマンションの7階にあるのですが、「 院」が入っているマンションに到着した妻は、1階で3、4人の入管職員（警察？）の方を見かけたそうです。そこでは何もなく、「 院」のある7階に上ってから声を掛けられ、外国人登録証を見せるように言われたそうです。更にパスポートを見せるよう指示されたので、アパートまで同行し、そこから警察署へ連行されました。

こういった妻の行動を今から考えると、自分が不法滞在、不法就労をしていたのに、不法残留期間が短いので大して悪いこととは思わなかったのだと感じられます。そして、逮捕後に初めて事態の重大さに気づいたのだと言えます。このときの経験で、妻は、日本の入国管理制度の厳しさを十分理解し、もう2度と同じ過ちを犯さないと誓っております。妻から反省の弁を述べた書面が届いていますので、これを提出します。

私が妻の逮捕を知ったのは、妻が警察から入管に移された後でした。入管にいる妻から電話を貰った私は何がなんだかわからず、茫然としてしまいました。気を取り直して、とにかく、入管へ面会に出向くことにしました。そこで妻の言葉と入管職員のお話で、不法滞在の事実を知りました。妻は涙を流して詫言っていました。このときの私は、「なぜ、打ち明けてくれなかったのだろう、信頼してくれていなかったのか？」と思い、無念で仕方ありませんでした。今から考えれば、外国人と交際するにはビザのことは避けて通れない問題ですから、私も迂闊だったと反省しています。その後、私も勉強をして、もし、妻が次に来日できた際には、ビザ更新など間違わないように、十分に注意する覚悟です。

妻が入管に収容されている間、私は、3回面会に行き、妻も手紙をくれました。このときの妻の手紙（写し）を提出します。

妻は、07年10月 日、退去強制処分を受けて帰国しました。

## 11 中国初渡航

妻は中国に送還されてしまいました。妻と離れてみて、『絶対に別れられない』という固い決意を持った自分に気づきました。妻が日本にいたときと同じようにパソコンのメッセージャーを使い、10月 日のうちに妻とテレビ電話で話をすることができました。私はどうしても妻に会いたい衝動に駆られ、中国へ渡航する約束をしました。私は海外旅行をしたことがなく、パスポートもありません。飛行機も初めてです。パスポートを申請するとこ

ろから始めて一番早く渡航できる日を調べると、10月× 日の大連行きでした。JTB池袋支店で「大連2泊3日プラン」と「大連ワンダ国際飯店」というホテルを申し込みました。

10月× 日、私は大連空港に降り立ちました。妻は瀋陽から4時間電車に乗って、空港まで迎えに来てくれました。妻も大連の地理には詳しくないので、タクシーを拾って名所案内をしてもらうことにしました。何箇所か回ってもらいましたが、森林動物公園というのは、なんと3時半には閉門するそうで、入ることができませんでした。中国の人は、あまり働きたがらないのかな?などと考えていました。大連の名所「星海広場」は天安門広場よりも大きく、世界一広い広場だという説明でした。ここで、写真業者に記念写真を撮ってもらいましたので提出します【写真5】。海に近くて風がビュービュー吹いていましたが、その割に寒くなかったのを覚えています。ほかに海岸通りなども走ってくれましたが、タクシーは、最初に70元と約束したのに、結局値上げされて100元も支払うことになってしまいました。

夕食は「大連漁港」という綺麗なレストランに入りました。驚いたのはメニューがないことです。水槽に入っている魚介類を「これをこうやって料理してくれ」と頼むのだそうです。そして量が多い。1人前の注文でも3-4人前に見えました。味は上々でした。

2日目は、大連駅へ出て行き先を決めることにしました。タクシーやら観光ガイドやらがひっきりなしに勧誘してきます。妻の提案で、中国人向けの観光ツアーに仲間入りしました。カップル3組で計10人くらいが1台のワンボックスカーに押し込まれました。旅順235高地の資料館、野生動物園、ワニ園、イルカショーのある水族館など、1日じゅう、大連の名所を巡りました。野生動物園というのは、金網の張ったワンボックスカーに乗って、トラやワニに生きたニワトリなどを食べさせるというショーでした。中国人は喜んで見ていましたが、私は正直なところ関心しませんでした。

3日目の11月1日は、時間的な余裕がないので、餃子を食べた空港へ向かいました。この日、大連空港に着いたあと、私から妻にはっきりプロポーズしました。「ちゃんと結婚しよう。雪ちゃんは、まあちゃんと死ぬまで一緒に居てくれるよね。」と言うと、妻は「ありがとう。こんな雪ちゃんでも結婚してくれるなら嬉しい。」と答え、私から「次に中国に来たときに結婚の書類を作ろう。どうやったら良いか調べてくる」と言い残して帰国しました。

このときの渡航では、妻の誕生日が10月 日なので、私から誕生記念のネックレスをプレゼントしました。これは、私の仕事であるバラエティ雑貨販売の主な仕入先の問屋・日本橋の「 ワール」で渡航1週間くらい前

に6万円で購入したものでした。

妻からはヒスイのネックレスと自動車内に下げるヒスイのお守りを貰い、また、私の母宛てにジャスミン茶を渡してくれました。

この中国初渡航は、私が中国に渡って妻に会うなんて...現実でありながら、信じられないような経験でした。でも、とにかく妻に会えて良かった、感無量でした。2人の強い絆を感じた再会でした。

日本に帰国した後は、会えない辛さがありますが、毎日、テレビ電話で話をし、前と同じように一緒にいる気がしていました。ときに笑い、ときに励まし合いながら、日々を送りました。

## 12 中国渡航(2)

2回目の訪中は、結婚登記を主たる目的にした渡航になりました。JTB池袋支店で「瀋陽5泊6日フリープラン」を申し込み、ホテル「瀋陽假日酒店」を予約しました。07年11月××日に瀋陽空港に降り立つと、妻が出迎えてくれました。そして、この日、妻の母・馬素芬と初めて会い、ホテルの喫茶店で自己紹介と近況報告をしました。義母は、大人しい感じの人というのが印象に残りました。義母からは、「日本から来て心配な面もあると思いますが、頑張ってください」というふうな返答で、私たちのことを素直に受け入れてくれている感じを受けました。その後、夕食到北京ダックを食べに出ました。お酒が苦手な私は、お店で出された老酒を舐めただけでカッと体が熱くなりました。とても飲めないなと思ってラベルを見ると、アルコール36度と書かれていました。食事後、妻のマンションへ寄って休憩しました。義母はそこから帰宅し、私たち夫婦はホテルへ戻りました。義母は、別れ際、「今度はお母さんの家にも来てね」と言ってくれたので、ほっとしました。義母の心遣いを嬉しく感じました。

11月××日には、あらかじめ日本で準備した書類を持って瀋陽市民政局へ出向き、結婚登記を完了させることができました。それが終わると、瀋陽で1番大きな公園「北陵公園」を歩きました。そして、翌朝には、結婚手帳を受け取ることができました。その日は、世界遺産に指定されている「清福陵(清の開祖ヌルハチのお墓)」も見学しました。

結婚手帳を手にして、これからは夫婦がお互いに助け合って生きてゆこうと、決意を新たにしました。

このときの渡航で撮影したのが【写真6,7,8,9,10】です。

私は、帰国後の12月×日、目黒区役所で日本側婚姻届を提出しています。



### 13 中国渡航（3）

3回目の訪中は、08年2月×日からになりました。JTB池袋支店で「瀋陽フリープラン」とホテル「瀋陽假日酒店」を頼んだのは前回とほぼ同じです。

このときは、瀋陽へ行って妻に会い、ゆっくりと時間を過ごしたということです。世界歴史遺産に認定されている瀋陽故宮を見学するくらいで、あとは妻と2人だけの時間を過ごしました。

このときの渡航で撮影したのが【写真11,12】です。

### 14 中国渡航（4）

4回目の訪中は、08年5月×日からになりました。JTB池袋支店で航空券だけ頼み、ホテルは妻が「瀋陽新世界酒店」を取ってくれました。このときの渡航目的は、結婚記念の写真を撮影することでした。結婚登記は済んだものの、すぐに結婚式をやる予定はなかったので、せめて結婚の記念に写真を撮ろうということになったのです。到着した日に、瀋陽市蘇家屯区にある「玫瑰情婚紗撮影店」という写真館で4時間くらい掛かって撮影してもらいました。このうち、妻の化粧や着替えに1時間くらいは掛かっています。なかなかポーズを決めるのに苦労したのを覚えています。料金は500元くらいで、後日、B5版くらいのフレーム入り写真、A5版くらいのプリント4枚、A4版くらいのアルバムが出来上がりました。仕上がりは上々だと思っています。夕食後、写真撮影で強張った体をほぐしてもらいにマッサージを受けて休憩しました。

2日目は、瀋陽市和平区にある「如一坊」というお店で、昼食に“豚しゃぶ”を食べました。どうもこちらでは、牛肉を食べないのかな？などと思いました。それからは、妻のマンションでテレビを見たり音楽を聴いたりして、ゆっくりしていました。なかなか滞在期間を長く取れず、2回目の訪中以降、妻の母に会っていないのが心残りでした。

このときの渡航で撮影したのが【写真13,14,15,16】です。

### 15 中国渡航（5）

5回目の訪中は、08年7月×日からになりました。JTB池袋支店で航空券だけ頼み、ホテルは妻が「海悦城市広場酒店」を手配してくれました。このときは、妻と妻の母で瀋陽空港まで出迎えに来てくれていました。それから義母の家に近い瀋陽市蘇家屯区のレストランで3人一緒の昼食を取りました。5月に撮影した結婚記念写真は義母が預かってくれていて義母から写

真アルバムを受け取りました。昼食を食べながら、義母に現状報告や妻の来日見込みなど今後の予定を説明し、食事後は義母だけ帰宅して、私たち夫婦はホテルにチェックインしました。このときもマッサージに掛かって体を癒しました。ここは、瀋陽市和平区の「推掌康復院」と言い、瀋陽にもお馴染みのマッサージ店ができてしまいました。

2日目は、「瀋陽世博園」というすごく大きな公園へ出かけました。その中に、花壇やアスレチック広場、テーマパークのような施設もあり、とにかく広いところです。これを歩いていると、疲れてしまうし時間も掛かりすぎます。ゴルフ場のカートのような乗り物を借りて散策することができました。乗り合いのワンボックスカーでホテルまで戻ると、ホテル近くのデパートやスーパーを見て回りました。

このときの渡航で撮影したのが【写真17,18,19,20】です。

#### 16 中国渡航(6)

6回目の訪中は、08年11月×日からになりました。JTB大泉学園店で航空券だけ頼み、ホテルは妻が「海悦城市広場酒店」を手配してくれました。到着の日には妻が空港へ迎えに来ていました。夕食は瀋陽市和平区にある「麗湖蒸菜」というレストランで食べました。ここも瀋陽に通ううち常連になった場所です。

2日目は、妻の母と次兄・崔良源に会い、瀋陽市蘇家屯区にある「福龍閣」というしゃぶしゃぶ屋で昼食を食べました。このときも、義母に現状と今後の予定を報告しています。義母はそこから帰宅し、私たち夫婦と次兄で、日本でいうスーパー銭湯へ行こうということになりました。その途中、蘇家屯区区委広場という公園を通ると、偶然、妻の父の6番目の妹(妻の叔母)と鉢合わせして一緒に写真を撮りました。結局、叔母も入れて4人で、スーパー銭湯へ向かうことになりました。私は次兄と一緒に入り、身振り手振りのジェスチャーで案内してもらいました。アカスリやサウナも体験できました。そこから私たち夫婦だけでホテルへ向かいました。

3日目の11月×日は、高名な古刹である遼寧省北鎮市青岩寺に参拝しました。ここは市街地からかなり奥地になります。朝5時に出発してバスに乗り4時間くらい掛かります。寒暖の差が激しいのですが、バスはもう待っているだろうし、日中は相当暑くなると思って、薄着で出掛けたのが失敗でした。バス停で凍えながら30分も待つことになってしまいました。お寺に到着すると、支払った金額分のお線香を渡されます。それが150センチもある長いもので、一人で抱えきれず、私と妻と男性バスガイドにも手伝って

もらって、それを抱えながら2時間掛けて参道を登りました。途中にいくつかの祠があり、そこに少しずつお線香を立ててゆきます。このときは、08年8月に入管へ出した申請が良い結果でありますように、そして2人の健康を祈願しました。11月でも日中は暑くなりシャツ1枚で十分なくらいでした。頂上まではかなり遠く、ふくらはぎもパンパンでしたが、2人で励まし合いながら登ってゆきました。この一步一步の登坂が、これから2人で歩いていく人生のように思え、心が1つになったように感じました。

4日目は、ホテルの近くでデパートやゲームセンターに入ったり、映画館で日本未公開の「007」を鑑賞しました。アクションものですし、妻が説明してくれるので、ある程度の内容を理解できました。10月×日の誕生日は過ぎてしまいましたが、妻にディオールの財布をプレゼントしました。これも仕事上の仕入先である「ワール」で11月×日に5万円で購入したものです。他に、瀋陽市和平区にある市場「×」へ行き、妻にシルバーのネックレスを買いました。

妻からは手編みのセーターをプレゼントされました。少し小さめでしたが、私のために一生懸命編んでくれたのをとても嬉しく思いました。このときの渡航は4泊できましたので、幸せの時間も充実していました。

このときの渡航で撮影したのが【写真21,22,23,24】です。

## 17 中国渡航(7)

7回目の訪中は、09年4月××日からになりました。JTB大泉学園店で「瀋陽フリープラン」に申し込み、ホテルは「瀋陽新世界酒店」でした。

到着すると、空港に妻と義母が出迎えてくれました。空港で記念写真を撮っています。タクシーで義母を自宅へ送り、私と妻でホテルへチェックインしました。常連になったマッサージ店で体を癒し、夕食も常連の「麗湖蒸菜」で食べました。2日目の朝は「ケンタッキー」に入ったのですが、お目当ては、お粥です。妻も私もこれが大好きなのですが、朝しか食べられないのが残念です。それから、市場へネックレスを買いに行きました。半年も前からお揃いのネックレスを買おうと言っていた約束を果たしたのです。2人でペアのシルバーのネックレスを買い、そのほかに妻にはデザインが似たイヤリングを購入しました。全部で1800元くらいでした。「金額は高くなくても、普段は離れて暮らしていても、気持ちはいつも一緒だよ。」と言って妻に渡すと、妻もすごく喜んでくれました。夕食はまた「麗湖蒸菜」に入りました。そして、4月×日に公開されたばかりの映画「南京」を鑑賞しました。南京大虐殺をテーマにしたこの映画は、日本人の視点に立って描かれているので

通訳も不要なくらいでした。日中両国の平和を祈念した映画だと受け取れました。

また、このときの渡航では、妻の息子の郭博雨に中古のプレイステーションポータブルをプレゼントしました。日本からラジコンカーの玩具を贈ったこともありまし、日本から妻にテレビ電話したときに博雨とも話したことがあります。博雨は今年8歳になる小学生ですが、普段は父方の祖父母（妻の前夫の父母）方で面倒を見てもらっています。妻は、月3回くらいは博雨に会いに行き、学校の宿題を教えたりしています。

このときの渡航で撮影したのが **[写真 25,26]** です。

## 18 中国渡航（8）

8回目の訪中は、09年9月×日からになりました。PTSトラベルナビ、リヴィオンズ大泉店で「瀋陽フリープラン2泊3日」に申し込みました。瀋陽空港に到着すると妻が出迎えてくれました。タクシーで瀋陽市蘇家屯区のしゃぶしゃぶ屋「福龍閣」に入り、私たち夫婦と義母、次兄の4人で会食しました。美味しい餃子屋を探していたのですが、適当な店が見つからず、08年11月のときと同じしゃぶしゃぶ屋になってしまいました。このときも、義母と次兄に近況を報告しています。この席で、次兄と親族にファイテンのネックレス（1本3000円くらい）を1本ずつと、次兄の娘にファンシー文具（3000円くらい）をプレゼントしました。ファンシー文具は私の店「ピーチ」で若い子に流行っているもので、受け取った次兄は、珍しがって喜んでいました。

ホテルは「新世界飯店」にチェックインしました。チェックイン後、私から妻に毎月送金している月額3万円の生活費の2か月分の6万円を手渡ししました。それから、夫婦2人で常連のマッサージ店・瀋陽市和平区の「推掌康復院」で施術を受けてから、これも常連のレストラン「麗湖蒸菜」で食事をしました。

翌1×日は、瀋陽駅午前6時28分発、本溪行きの列車に乗り、本溪駅からタクシーに乗って遼寧省本溪市の「美門山国家森林公园」をハイキングしました。自然の綺麗な空気に触れて、新鮮な気分になることができました。そして、夫婦で行った日光や長瀞の自然を思い出しながら、2人でいられる幸福感を味わう瞬間でした。帰路は、満員のマイクロバスに押し込まれ窮屈な思いをしました。瀋陽に戻ると「推掌康復院」でマッサージを受け、体を癒しました。毎回、ここに通うので、院長さんが中国語のワンポイントアドバイスをしてくれます。

この日の夕食は、最近オープンした瀋陽市瀋河区のバイキングレストラン「金銭豹」に入りました。妻がネットで見つけたのですが、1人180元、2時間で、日本料理、西洋料理、香港料理などがバイキング方式で食べ放題飲み放題のお店です。味も上々という評判ですが、実際に味わってみると、マママアというところでしょうか。

3日目の1日は、お気に入りの朝食「ケンタッキーのピータン入りお粥」を食べました。2人ともこれが大好きなのですが、朝9時までしか食べられないのが惜しいです。それから、音楽好きの私は、お土産に香港・台湾歌手のCDを買いに、いつものショップに行ったのですが、そこが潰れていました。これは残念でしたが、代わりに夫婦お揃いの白いトレーナーを買ってきました。

今回も、2泊3日という短いスケジュールなので、夫婦の時間はあっという間に過ぎてしまいました。会えるのは嬉しい、けれど、すぐに別れなければならぬのは辛い。妻に前歴があり、ペナルティを課されるのは理解できます。妻も私もその点はよくわかっているつもりです。ですが、何とか1日でも早く一緒に暮らしたい、その気持ちは決して揺るぎません。妻の不安で寂しい心の内は、手に取るようにわかります。それを愚痴1つ言わずに堪える妻は、いじらしく愛らしく、決して手放すことはできません。このときの渡航で改めて思い定めた次第です。

このときの渡航で撮影したのが【写真27,28,29】です。

#### 19 日本の親族について

私には父母と弟、妹がいます。これらの親族には、事後報告になりましたが、中国での結婚成立から2ヵ月後くらいに話をしています。最初は驚いていましたが、みんな、納得してくれています。最初の訪中の項目で書きましたが、妻から私の母にプレゼントを貰ったこともありました。母は、妻が日本滞在中に妻のマッサージを受けたことがあり、顔見知りだったのです。今回の申請をするにつき、母が嘆願書を書いてくれましたので、提出します。

#### 20 妻の学歴と日本語力について

妻は質問書第4ページ記載のとおり、就学による在留歴があり、×・ランゲージ・スクールで、しっかりと日本語を勉強して、日本語会話と読み書きを習得しています。その後も留学の資格で中野区中野二丁目所在の専門学校×クリエーションへ通学し、ある程度の期間は、情報処理の勉強をしていました。日本で生活するための日本語力は十分に備わっています。×・

ランゲージ・スクールの修了証書写しを提出します。

#### 21 国際電話等の利用について

上記にも記載しましたが、妻とはパソコンのメッセージを使ったテレビ電話による会話が中心です。そのほか、パソコンから普通の電話に掛ける「スカイプアウト」という方式の電話（私たちの場合は、日本の私のパソコンから主に妻の携帯に掛ける方法）でも連絡し合っていますので、その通話明細を提出します。また、国際電話のプリペイドカードも使用しますので、これの写しも提出します。

#### 22 生活費の送金について

妻は、今、来日できるのを心待ちにしている日々です。定職には就いていませんので、私から妻に生活費を送金しています。1ヶ月あたり3万円（約22000円）として、2ヶ月分くらいずつ送っています。瀋陽の生活レベルからして、月に20000円くらいあれば何とか生活できますので、この金額で我慢してもらっています。

送金記録の控（一部）を提出します。

なお、前記18に記載したように、生活費を渡航時に手渡しすることもあります。

#### 23 結婚式について

私たちは、4回目の訪中のときに結婚の記念に写真を撮りましたが、式とか披露宴はまだ挙げていません。金銭的な面もありますし、妻が来日できて生活が落ち着いたたら、日本の親族を集めて質素な式を挙げたいと相談しています。

#### 24 結語

妻には、就学等による日本語学習歴があり、また日本での生活歴から日本の生活習慣を良く知っていますので、来日後の生活には不安がありません。以上のとおり、私と妻の間では、06年8月に知り合って3年を超える期間が経過し、07年5月に個人的な交際を開始してから2年を超える期間が経過しています。今日まで十分に相互理解を深めてきております。

妻には、2007年10月の強制退去歴があり、なかなか日本への入国は難しいと聞いています。前に申請した「東永認T第08 - ××号」「東永認T第08 - × 号」は不交付とされました。

ですが、私は、どんなに困難があっても妻と一緒に日本で暮らす決意に変わりはありません。

妻が二度と入管法その他の日本の法令を破ることのないよう厳格に監督致します。

以上の次第ですので、何らかの特例をもって妻の入国をご許可くださるよう嘆願するものです。

(以上です)